



第27回

パピーミル



てらくちまほ

在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わり、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供している。愛犬ジュリエットが「他界した今は、ニューヨークに移転して活躍中。ご意見・ご感想は：info@doggieproject.com

How much is that doggie in the window? (ウインドーのあのわんちゃんいくらですか?)という歌を耳にしたことのある方は多いでしょう。1950年代にパティ・ペイジという歌手が全米で大ヒットさせ、全米のペットショップで子犬(パピー)がバカ売れました。パティさんのショーには、パピーを抱いた大勢の子供たちがサインを求めにきたとか。一方、親たちはパティさんに「お陰で扶養家族が増えた」とこぼしたと言います。パピーはほんとにかわいいですね。誰でも一度は「子犬がほしい」という衝動に駆られた経験があると思いますが、ペットストアで売られているパピーはどこからやって来るかご存知ですか? ペットストアのパピーの99%は「パピーミル」というところからやってきます。

いと日夜の看護をするはめになった飼い主の体験談をよく聞きますが、情が移った後に「返品」する飼い主はほとんどいません。それがパピーミル成功の秘密でもあるのです。

パピーミルが生まれたのは第二次世界大戦直後とされています。アメリカ中西部の農家が、農作物以外の収入源を探していた際に思いついたアイデアらしく、犬を繁殖してペットショップに卸すシステムを作ったのです。需要は大きく、今では副業どころかそれだけで十分な収入を生み出す一大産業に発達しました。米国ではミズーリ、カンザス、ネブラスカなどの中西部の州と、ペンシルベニア州のアーミッシュ地域に集中して存在します。大抵のパピーミルではウサギ小屋のような金網の小さな檻が所狭しと並び、それぞれに犬がぎゅぎゅ詰り込まれています。犬たちが土や草を踏むことはなく、もちろん人間に抱かれることもなし。

檻から出るのには売られる際か射殺される時。その時初めて人に触れても触れられないのです。犬

パピーミルの実態

ミルとは製造所。すなわちパピーミルとは子犬製造所を意味します。あのあどけないパピーたちはみんな想像を絶する劣悪な環境で生産され「商品」として店に流れってきます。繁殖用に競り落とされる親犬は夕方同然ですが、店に出る子犬は2000ドルにもなります。しかし、ミルの犬は100%が病気もちです。背景を何も知らずに買って、とんだ医療費の支払



商品として量産される子犬たち

たちは一日中吠えっぱなし。スペースがあれば檻の中でずつとくるくる回っています。うるさいからと声帯を取り除くミル経営者もいます(パピーミルの詳細は動物愛護協会のサイトを参照…www.humanesociety.org/issues/puppy_mills/)。

撲滅のため

問題が表面化してから行政は商業用動物の扱いに関する法律を厳しくし、管理不行き届きな例には罰金や営業停止などの罰を科しています。しかしそれはいちごっここのようなもので、逃げ道を知る業者は色んな形で商売を続行しています。

この醜いサイクルを断ち切るための方法の一つ。消費者の行動を変え、人がペットショップで子犬を買わなければパピーミルは倒産します。ビジネスはすべて需要と供給で成り立つわけですから、買い手がなければ売り手も力を注ぎません。ただ、そのためには教育が大きな鍵になってきます。まず、消費者が実態を知る。次に、犬を買いたいけれどどこで手に入れたらいいのか分からない人に、パピーミル以外の選択肢があることを広める。これだけでもパピーミル撲滅に効果があります。

最初に紹介した歌手のパティさんですが、自分の歌が問題に拍車をかけた償いにと前述の曲をアレンジし、シェルター犬のアダプション奨励に精一杯力を注いでいらつやいます。新しい歌詞は「Do you see that doggie in the shelter? (シェルターにいるあのわんちゃんを見た?)」

今回は、アメリカのアニマル・シェルターについてお話しします。実際にボランティアでもしないと、その仕組みはなかなか把握しにくいもの。家をなくした動物が新しい家族を見つけるまでの流れを通して紹介します。どうぞお楽しみに。